

## 第6学年 道徳科学習指導案

### 【研究主題・副題】

自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想  
～多面的・多角的な思考を促す発問を通して～

### 【研究仮説】

道徳科において、多面的・多角的な思考を促す発問を取り入れた授業展開を行えば、様々な感じ方や考え方に触れ、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。



### 【授業仮説】

多面的・多角的な思考を促す発問にかかる学習過程において、主人公がどんなことに気付いたから失敗を許せるようになったのかを「主人公の思い」「相手への思い」を通して考えたり、一人一人が考える広い心とはどんなことなのか自分の生活や生き方を振り返ったりしながら深く考えることにより、相手の過ちを謙虚に受け止め、広い心で接していこうとする道徳的態度が育つであろう。

- 1.主題名 広い心 [B相互理解, 寛容] 関連性のある項目 [B親切, 思いやり]
- 2.教材名 「あやまってすむことじゃない」(小学道徳 ゆたかな心 出典: 光文書院)
- 3.主題のねらい 相手の過ちを謙虚に受け止め、広い心で人と接していこうとする道徳的態度を育てる。

#### 4.主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」をねらいとしている。これは、中学年「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。」を受け、中学校 [相互理解, 寛容] で「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」につながっていく。人は誰でも完璧な存在ではなく、失敗や過ちを犯すことがある。それにもかかわら

ず、他人の失敗や過ちは許せないものである。しかし、自分も同様に失敗することがあるのを知ることによって、広い心で相手を許すことができるようになっていく。謙虚とは、自分は不完全な存在であり、他者には自分にないよさがたくさんあるという自覚である。このような自覚は、いろいろな考え方に立って物事を見ようとする広い心にも通じる。高学年の児童には、自分に謙虚になり、広い心で自分と異なる意見や立場を大切に作る生き方について考えることが大切である。広い心は、お互いを大切に、よりよい人間関係や社会を築いていくことに繋がるということのよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする道徳的態度を育てていくことが必要である。

## (2) ねらいからみた児童について

本学年部の多くの児童は、学校や学級での生活の中で、相手の気持ちをよく理解することの大切さや、お互いを思いやることで心地よい人間関係を築けることの大切さを学んできている。時には自分と異なる意見や立場を受け入れることが必要だと理解しているにもかかわらず、自分本意な考えや自己保身から、謙虚な心で自分と異なる意見や立場を受け入れられないこともある。相手が自ら過ちを認めて謝っているときは、許すものであるということ、子どもは今までに教えられてきている。しかし、相手を心から許しているかどうかは分からない。心から許せない状態をそのままにしておくと、時間が経って思いが爆発したり、こらえられなくなった感情が行為となって表れたりすることがある。そこで、相手の過ちに対して、自分にも同様のことがあると自覚していく過程を大切にすることを通して、広い心で相手を許すことについて考えさせるよい時期である。

このような児童の実態に対して、[B相互理解, 寛容] [B親切, 思いやり]において、相手の過ちを、謙虚な心で受け止め、広い心で人と接していこうとする道徳的態度を育て、自己の生き方についての考えを深めさせていきたいと考えている。

## (3) 教材について

本教材は、身近な日常生活を題材としており、児童に自分自身のこととして考えさせることができる。主人公のたけしは、楽しみにしていた外食先が店員の過ちで予約されていないことが分かりがっかりする。謝っている店員を許せないたけしは、「あやまってすむことじゃない」と心の中でつぶやく。そのとき、自分が「あやまってすむことじゃない」と言われた経験を思い出す。それは、自分の過ちで弟を怒らせ、謝っても許してもらえなかったという苦い経験であった。心からお詫びする心が受け入れられないつらさを味わい、弟の相手の過ちを許せない心に直面したたけしを通して、失敗は誰にでも起こり得るゆえに、広い心で許すことの大切さを感じ取らせたい。また、困っている人の気持ちが分かり、その苦しみをわがことのように受け止め、その人の立場に立って考える思いやりの心とも関連付けていきたい。

## 5.指導について

相手の過ちを謙虚に受け止め、許すことができない場面で生じる心情やその変化を、自らの日常生活での内面と関係付けて考えさせていきたい。また、他者も自分と同様に過ちを犯すことがあるということを実感させ、心からお詫びすることが受け入れられないつらさについても、授業を通して深めさせていきたい。

導入では、自分たちがもっている広い心についての考えを出させ、話し合いに生かせるようにする。「広い心とは、どういう心のことだと思いますか。」と問い、道徳的価値に関わる発問で問題意識を高めさせるようにしたい。

展開では、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるために、教材の内容について話し合う必要がある。そのため、一つ目の発問では、「たけしは、どんなことに気付いたから失敗を許せるようになったのか。」と問い、たけしの心情の変化や背景に、目を向けさせるようにする。次に、二つ目の発問では、失敗をした人を許す心の広さについて考えさせるために、「たけしが学んだ何より大事なことは、どんなことでしょうか。」という状況について中心に考え、何が問題なのかを多面的・多角的な思考を促しながらさらに価値理解を深めさせたい。その際、「たけしの気持ち」「広い心の意味」の観点から、多面的・多角的な思考の流れを板書に位置付けていくようにする。

終末では、「広い心とはどんなことでしょうか。自分の考えを振り返って考えましょう。」と問い、場面・対象を広げながら、ワークシートに自分の考えを深めたか、または、これから深められていけそうかを書かせていく。広い心とは、相手の過ちを謙虚な心で受け止め、思いやりをもって人と接していくことを理解させていきたい。

## 6.研究とのつながり

### (1) 道徳的価値について多面的・多角的な思考を促す発問

広い心は、相手の過ちを謙虚な心で受け止め、思いやりの心で人と接していくことから生まれることを理解させるために、「たけしは、どんなことに気付いたから失敗を許せるようになったのか。」「たけしが学んだ何より大事なことは、どんなことでしょうか。」とした。【たけしの思いや気持ち】【店員さんへの思い】【広い心の意味】の側面から道徳的価値について深めさせ、広い心の価値が話し合いの中で児童の発言から出てくると考えた。よって、物事を一面から捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、自分との関わりで考えていくことができる。

### (2) 自己の生き方についての考えを深める

「あなたが考える広い心とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」とした。授業を通して広い心とはどんなことなのか、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させ、全体で考えを共有していくようにする。

## 7.本時における評価につながる見取り

検証児を C1, C2, C3 とし、道徳的価値について多面的・多角的な思考が促されていくことで、自己の生き方についての考えを深めることができていたかを見取っていく。そこで研究を進めるに当たって、「自己の生き方についての考えを深め、これからの生き方につなげていこうとしているか。」という観点で見取りを進める。事後アンケートについては、三つの質問項目を、◎よくできた○できた△もう少しの三件法で自己評価をする。全四回の事後アンケートを数値化することで、検証授業の成果と課題に生かしていきたい。具体的には、クラス全体の児童を対象として実施する。①は、道徳的価値の理解を深めることができたかを見取る。②は、多面的・多角的な思考が促されていたかを見取る。③は、自己の生き方についての考えを深めることができたかを見取る。三点の質問項目を横棒グラフで示し、全四回で変容が見られたか数値化することで、研究の内容を検証する。ただし、数値による道徳性の評価を行うことではない。授業後の聞き取りインタビューでは、検証児に対してのみ行う。書くことが苦手な児童もいるため、「今日の授業で何を学びましたか。」「ワークシートに、～と書いていたけれど詳しく教えて。」と質問すれば、授業では見取れなかった考えを引き出せるのではないかと考えた。

視点	質問項目	対象	方法
児童は、道徳的価値の理解を深めることができたか。	①「道徳的価値の言葉」について自分の考えをもった。	全員	事後アンケート
児童は、多面的・多角的な思考が促されていたか。	②自分とは違う友達の考えのよさを見付けた。	全員	事後アンケート
児童は、自己の生き方についての考えを深めることができたか。	③これからの生活に（続けて）生かしてみようと思った。	全員	事後アンケート

8.本時案

時間	学習活動	主な発問 予想される児童の反応や心の動き	○指導上の留意点 ☆評価につながる見取り
導入 5分	1 広い心についての考えを出し合う。	「広い心とは、どういう心のことだと思いますか。」 ・思いやりの心。 ・感謝の心。 ・相手を許す心。	○道徳的価値に関わる発問で、問題意識を高めさせる。
展開 30分	2 教材文を読み、教材の内容について話し合う。	めあて 広い心とは、どういう心なのか考えよう。	
		「たけしは、どうして腹が立ったのでしょうか。」 ・とても楽しみにしていたのに、予約をミスしていたから。 ・おなかもすいていたし、がっかりしたから。	<b>第1発問</b>
		たけしは、どんなことに気付いたから失敗を許せるようになったのか。	
道徳的価値について多面的・多角的に思考する	自己の生き方についての考えを深める	<p><b>【たけしの思い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弟との約束を忘れて、本当に困った経験を思い出したから。</li> <li>・「ぼくには大事な約束だったから、あやまってすむことじゃないよ。」と言った弟の一言が胸につきささったことを思い出したから。</li> <li>・自分にも同じようなことがあったから。</li> </ul> <p><b>【店員さんへの思い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の失敗を取りもどそうとけん命だったから。</li> <li>・何度も頭を下げて謝ったから。</li> <li>・席を準備しようとお願ひしたり、相談したりしている姿を見たから。</li> </ul>	<p>☆ワークシート (自分の考え)</p> <p>○出された考えを整理、分類して板書し多面的・多角的な思考が促されるようにする。</p>
		たけしが学んだ何より大事なことは、どんなことでしょうか。	<b>第2発問</b>
		<p><b>【たけしの気持ち】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の失敗を許すことも、大切なこと。</li> <li>・相手のことを考えること。</li> <li>・自分でも失敗することがあるから、広い心をもつこと。</li> <li>・思いやりの心をもって、許すこと。</li> </ul> <p><b>【広い心の意味】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人のことを考えてあげること。</li> <li>・その人の立場を考えること。</li> </ul>	○自分との関わりで考えさせる。

<p>終末 10分</p>	<p>3めあてについて、自分の考えを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自己の生き方についての考えを深める</p> </div>	<p>「あなたが考える広い心とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広い心とは、相手の気持ちを考えること。</li> <li>・広い心があれば、相手の考えや気持ちを認めて、許すことができいくこと。</li> <li>・お互いに許すことができること。</li> <li>・広い心があれば、自分も相手もすっきりした気持ちになれること。</li> </ul> </div> <p>説話</p> <p>みんなの周りにはたくさんの方がいるけれど、同じ人はいません。感じることや、思うこと、そして考えることもきっとみんなそれぞれです。だから、お互いに認め合い、受け入れ合って生きていくことが大切です。自分とは違う意見にも耳を傾け、どうしてそのような立場をとるのかを相手の気持ちに寄り添って考えていきましょう。</p>	<p>☆ワークシート (自分の感じたことや考えたこと)</p> <p>○自己の生き方についての考えが深められるようにするため、これまでの生活を振り返って考えさせる。</p>
-------------------	---	--	--

私は私と思っている自分 ⇒ 素直な気持ちで向き合っ

人間はときにわがままで、独りよがり。そのことに気付いていけばきっと誰でも相手と素直に向き合える。

相手のことが許せないと思うことがある自分 ⇒ 相手の立場に立って

自分とは違う意見や考え方を認めるのは難しいこと。そんなときは、相手の立場に立って考えてみる。

そこから分かることもある。

私のことを分かってほしいと思っている自分 ⇒ 違う意見を受け止めて

自分と意見が違うからこそ、その人から学ぶことができる。

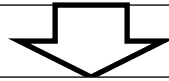
## 第6学年 道徳科学習指導案

### 【研究主題・副題】

自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想  
～多面的・多角的な思考を促す発問を通して～

### 【研究仮説】

道徳科において、多面的・多角的な思考を促す発問を取り入れた授業展開を行えば、様々な感じ方や考え方に触れ、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。



### 【授業仮説】

多面的・多角的な思考を促す発問にかかる学習過程において、係の人が注意をしている様子やお客様の言動を通してわたしが気付いたことを考えたり、権利や義務について自分の生活や生き方を振り返ったりしながら深く考えることにより、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たしていこうとする道徳的実践意欲が育つであろう。

- 1.主題名 自他の権利と義務 [C規則の尊重]
- 2.教材名 「お客様」(小学校道徳 読み物資料集 出典：文部科学省)
- 3.主題のねらい 自他の権利を大切にし、進んで義務を果たしていこうとする道徳的実践意欲を育てる。
- 4.主題設定の理由
  - (1) ねらいとする道徳的価値について  
本主題は、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」をねらいとしている。これは、中学年「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」を受け、中学校「遵法精神、公德心」で「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。」につながっていく。現在の児童を取り巻く社会状況を見ていくと、社会規範が大きく揺らいでいるニュースが取り上げられていることがある。そのような中で、法やきま

りの意義を理解し、遵法の精神をもって過ごしていくことは生きていく上で大切である。また、社会生活上のモラルなどの倫理観をもって生活することはよりよく生きていくために必要なことである。それとともに他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、自分に課せられた義務をしっかりと果たすことも、よりよい社会生活を送る上では、重要になってくる。児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として様々な規範を身に付けていくことである。社会のきまりのもつ意義について考えることを通して、自他の権利を尊重するとともに、義務を果たすという精神をしっかりと身に付けるように指導することが大切である。自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分は何をすればよいのか、自分には何ができるのか、自他の権利を尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで約束やきまりを守って行動する道徳的实践意欲を育てていくことが必要である。

## (2) ねらいからみた児童について

学校のリーダーとなった今年度、きまりについて昨年度以上に意識しながら生活している場面が多く見られるようになってきた。また、きまりやマナーの存在そのものや守ることに対して反発する児童はいない。前回の「いらなくなったきまり」の振り返りでは、「きまりをつくったからやるんじゃないくて、自分で考えて進んで行動していけば、自然と意識していけると思います。」「きまりとかめんどくさいと思っていたけど、一人一人が協力して自分たちの問題だから、責任を持たないといけない。」といった考えが見られた。一方、事後アンケートから課題も見つかった。問2「友達の考えのよさを見つけた」では、できた49%、もう少し9% 問3「今までの自分の生活をふり返って考えた」では、できた61%、もう少し9%と答えており、よくできたの割合が半数以下であった。ワークシートやアンケートの結果、普段の生活の様子から学級全体を見ると、きまりに対し大きく反発する姿は見られないものの、「きまりだから仕方ない」「なんであるか分からないけどきまりは守るものだから」と形式的にとらえたり、きまりを守る理由に「先生に叱られるから」「誰かが見ている時は守る」ということを挙げたりする児童もいる。また、登下校中や放課後になると見られているという緊張感や意識が薄れ、きまりに対する意識が低下すると保護者からの相談も寄せられている。

このような児童の実態に対して、本校高学年の重点指導項目である[C規則の尊重]において、自他の権利を大切に、進んで義務を果たしていこうとする道徳的实践意欲を育て、自己の生き方についての考えを深めさせていきたいと考えている。

## (3) 教材について

本教材は、好きなキャラクターショーを見たくて念願の遊園地に連れてきてもらった主人公が中心の話である。ショーの始まりを待つ間に、どんどんと混み合ってくる会場で、係の人がたくさんの注意を大きな声で何回も呼びかける。その呼びかけに対して、主人公は快く思っていない。ショーが始まると主人公の前の大人が子どもを肩車し、主人公はショーが見えなくなる。肩車をした人は係の人の注意を受け、渋々子どもを降ろすが、「納得できないものを、勝手にいろいろおしつけるのはおかしいんじゃない



ないですか。わたしたちはお金をはらって入場しているんです。お客様なんですよ。」と激しく抗議する。これに対して、係の人は、「申しわけございません。ご協力ありがとうございました。」と頭を下げる。この状況を見て、主人公はいろいろなことを考えるのである。この設定場面は、子どもたちにとってイメージしやすく、自分の身に起こることとして捉えやすい教材である。

## 5.指導について

高学年の児童は、きまりの大切さについて、知識としては理解している。しかし、「自分一人ぐらいなら・・・」「みんな守っていないし・・・」「一回ぐらいなら・・・」「今だけなら・・・」といったように自己規制がうまくできなかつたり、他者の目を意識してわざと違う行動をとったりする場合もある。児童はこれまでに約束やきまりを守ることは、みんなが気持ちよく生活するために大切であることを、「マナーからルールへ、そしてマナーへ」「いらなくなったきまり」の二つの教材を通して学んできた。高学年ではさらに権利と義務という観点から自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重する生き方について自己の生き方と重ねながら考えを深めたりすることが必要である。それが遵法の精神につながっていくであろう。そこで、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについて、授業を通して考えを深めさせていきたい。

導入では、自分たちがもっている権利や義務についての考えを出させ、話し合いに生かせるようにする。「権利や義務とは、どういうことだと思いますか。」と問い、道徳的価値に関わる発問で問題意識を高めさせるようにしたい。

展開では、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるために、教材の内容について考える必要がある。そのため、一つ目の発問では、「わたしは、どんなことに気付いたから、何か、変だと思ったのか。」と問い、登場人物の心情や考えの変化を明らかにする。次に、二つ目の発問では、自他の権利を尊重する中で自らの義務を果たしていこうとすることについて考えさせるために、「わたしが、気持ちが腫れないまま、会場を後にした時、どんなことを考えていたのでしょうか。」という状況について中心に考え、自分の考えや生き方を明らかにしていく。その際、他者の権利に気付いたり、自分の義務を果たしたりすることは、ときに難しい場面もあることを押さえる。

終末では、「あなたが考える権利や義務とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」と問い、場面・対象を広げながら、ワークシートに自己の生き方についての考えを深めたか、または、これから深められていくかを書かせていく。社会規範は自他の権利を守ることにつながることに気付かせ、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たしていこうとすることの大切さを理解させていきたい。

## 6.研究とのつながり

### (1) 道徳的価値について多面的・多角的な思考を促す発問

自他の権利を大切にし、進んで義務を果たしていこうとすることの大切さを理解させるために、

「わたしは、どんなことに気付いたから、何か、変だと思ったのか。」「わたしが、気持ちが悪くないまま、会場を後にした時、どんなことを考えていたのでしょうか。」とした。【権利の主張】【他者の権利の尊重】【義務を果たす】の側面から道徳的価値について深めさせ、権利や義務の価値が話し合いの中で児童の発言から出てくると考えた。このことによって、物事を一面から捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、自分との関わりで考えていくことができる。

## (2) 自己の生き方についての考えを深める

「あなたが考える権利や義務とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」とした。授業を通して権利や義務とはどんなことなのか、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させ、全体で考えを共有していくようにする。

## 7. 本時における評価につながる見取り

検証児を C1, C2, C3 とし、道徳的価値について多面的・多角的な思考が促されていくことで、自己の生き方についての考えを深めることができているかを見取っていく。そこで研究を進めるに当たって、「自己の生き方についての考えを深め、これからの生き方につなげていこうとしているか。」という観点で見取りを進める。事後アンケートについては、三つの質問項目を、◎よくできた○できた△もう少しの三件法で自己評価をする。全四回の事後アンケートを数値化することで、検証授業の成果と課題に生かしていきたい。具体的には、クラス全体の児童を対象として実施する。①は、道徳的価値の理解を深めることができているかを見取る。②は、多面的・多角的な思考が促されていたかを見取る。③は、自己の生き方についての考えを深めることができているかを見取る。三点の質問項目を横棒グラフで示し、全四回で変容が見られたか数値化することで、研究の内容を検証する。ただし、数値による道徳性の評価を行うことではない。授業後の聞き取りインタビューでは、検証児に対してのみ行う。書くことが苦手な児童もいるため、「今日の授業で何を学びましたか。」「ワークシートに、～と書いていたけれど詳しく教えて。」と質問すれば、授業では見取れなかった考えを引き出せるのではないかと考えた。

視点	質問項目	対象	方法
児童は、道徳的価値の理解を深めることができたか。	①「道徳的価値の言葉」について自分の考えをもった。	全員	事後アンケート
児童は、多面的・多角的な思考が促されていたか。	②自分とは違う友達の考えのよさを見付けた。	全員	事後アンケート
児童は、自己の生き方についての考えを深めることができたか。	③これからの生活に（続けて）生かしてみようと思った。	全員	事後アンケート

8.本時案

時間	学習活動	主な発問 予想される児童の反応や心の動き	○指導上の留意点 ☆評価につながる見取り
導入 5分	1 権利や義務についての考えを出し合う。	「権利や義務とは、どういうことだと思いますか。」 ・みんなに権利がある。運動場で遊ぶ権利や図書館で本を借りる権利など ・義務は、時間を守るなどしなければならないことやしてはいけないこと。	○道徳的価値に関わる発問で、問題意識を高めさせる。
めあて 権利や義務とは、どういうことなのか考えよう。			
展開 30分	2 教材文を読み、教材の内容について話し合う。	「わたしは、どんな思いで注意ばかりする係の人を見ていたのでしょうか。」 ・やっとの思いで連れてきてもらったのに、楽しい気持ちがなくなる。 ・注意ばかりで、うるさいなという思い。 ・私も見たいのに、このままじゃ見えないという思い。	<b>第1発問</b>
わたしは、どんなことに気付いたから、「何か、変だ。」と思ったのか。			
道徳的価値について多面的・多角的に思考する			
深める 自己の生き方についての考えを			
		<p><b>【権利の主張】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を払ったお客様はいばっていいのか。</li> <li>・みんなを嫌な気持ちにさせている。</li> </ul> <p><b>【他者の権利の尊重】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人が見えないのはいいのか。</li> <li>・好き勝手をして、迷惑をかけてもいいのか。</li> </ul> <p><b>【義務を果たす】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが楽しく見るためには指示に従わないといけないこと。</li> </ul> <p><b>【社会の維持】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係の人が謝るのはおかしいこと。</li> </ul>	<p>☆ワークシート (自分の考え)</p> <p>○出された考えを整理、分類して板書し多面的・多角的な思考が促されるようにする。</p> <p style="text-align: center;"><b>第2発問</b></p>
わたしが、気持ちが晴れないまま、会場を後にした時、どんなことを考えていたのでしょうか。			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の権利ばかり主張してはいけないこと。</li> <li>・係の人の言うことを守っていたら、楽しいショーになったのにと考えていたこと。</li> <li>・権利を主張することも大切だけど、義務もしっかりと果たさないといけないこと。</li> </ul>	<p>○意図的な話し合いの場面を設定し、全体で考えを共有する。 (ペアやグループ)</p>

<p>終末 10分</p>	<p>3めあてについて、自分の考えを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">       自己の生き方についての考えを深める     </div>	<p>「あなたが考える権利や義務とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利は誰にでもあるけど、主張ばかりしてはいけない。</li> <li>・自分や相手の権利は大切なこと。</li> <li>・義務には、それぞれの立場でしなければならないことや、してはいけないことがある。</li> <li>・一人一人に権利があり、義務を果たしながら一緒に生活をしていること。</li> <li>・自分だけでなく、相手のことも考えて生活をしていきたい。</li> <li>・権利や義務について、これからも考えながら生活をしていきたい。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館では、本を借りる権利と、きれいに返す義務があること。</li> <li>・運動場は、誰でも使う権利があるけど、誰でもきまりを守る義務もあること。</li> </ul>	<p>☆ワークシート (自分の感じたことや考えたこと)</p> <p>○自己の生き方についての考えが深められるようにするため、これまでの生活を振り返って考えさせる。</p>
-------------------	--	---	--

誰かが一方的に自分の権利ばかりを主張して義務を果たさなかったり、一方的に義務だけを押し付けられたりするようなことがあったら、どうなるでしょうか。

私たちは誰でも、よりよい社会に生きる権利がある。

私たちは誰でも、よりよい社会をつくる義務がある。

私たちは、一人一人が権利をもち、義務を果たしながら社会の中で共に生活しています。

権利とは、ある物事を、自分の意思によって自由に行ったり、他人に要求したりすることのできる資格や能力のこと。主に自分。

義務とは、人がそれぞれの立場に応じてしなければならないことやしてはならないこと。守らなければならないルールや約束を守る責任ということ。

## 第6学年 道徳科学習指導案

### 【研究主題・副題】

自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想  
～多面的・多角的な思考を促す発問を通して～

### 【研究仮説】

道徳科において、多面的・多角的な思考を促す発問を取り入れた授業展開を行えば、様々な感じ方や考え方に触れ、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。



### 【授業仮説】

多面的・多角的な思考を促す発問にかかる学習過程において、登場人物が考え方を変えたのは、どんなことに気付いたかを話し合ったり、きまりは何のためにあるのか自分の生活や生き方を振り返ったりしながら深く考えることにより、法やきまりを守ることの大切さを理解し、自他の権利を大切に、進んで義務を果たしていこうとする道徳的態度が育つであろう。

1. 主題名 法やきまりを守って [C規則の尊重]
2. 教材名 「きまりは何のために」(私たちの道徳 小学校5・6年 出典:文部科学省)
3. 主題のねらい 法やきまりを守ることの大切さを理解し、自他の権利を大切にしたり、進んで義務を果たしたりしていこうとする道徳的態度を育てる。
4. 主題設定の理由
  - (1) ねらいとする道徳的価値について  
本主題は、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。」をねらいとしている。これは、中学年「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」を受け、中学校「遵法精神、公德心」で「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。」につながっていく。人々の社会生活は遵法精神の基に成り立っている。自分一人くらいはきまりを守らなくていいと、自己中心的な言動や行動を主張し、義務を果たそうとしない道徳的態度が、他者に多大な迷惑をかけることになることを考えなければならない。現代の

社会に見られるように、個性を尊重することや自由であることをはき違えて勝手な解釈を行うことが世間を騒がすこともある。それは、自分自身の欲求を抑えられずに行動した結果が多い。高学年の児童においても、普段の生活の中で、周囲の人と協力することが苦手だったり、様々な問題を生じさせたりすることがある。また、他者の存在に気付くとともに集団の中における自分の存在を意識し始め、きまりを守れていない人に対して、厳しく接することがある。しかし、それが自分に降りかかってくると、都合のいいように解釈し、自分の言動や行動のために、他者に与える影響を軽く扱う傾向がある。そこで、社会の秩序を維持し、互いの生活や権利を守ったりするためには、法やきまりは不可欠なものであることについて深く考えさせる必要がある。また、児童が成長することは、同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことである。高学年の児童には、社会の法やきまりのもつ意義について考えるとともに権利や義務を大切にす道徳的態度を育てていくことも必要である。

## (2) ねらいからみた児童について

本学級の多くの児童は、時間やきまりを守って行動することができている。しかし、自分のことだけしか関心がなく、周りの人がきまりを守っていないなくても自分には関係ないといった考えの児童も多い。また、友達も守っていないから問題ないと時間やきまりを守らない児童も少数いる。周りの人への関心のなさや、声をかけることができない消極的な姿勢が課題である。また、自分たちできまりを作る時に、学級で話合ってきたきまり、学校全体で決めたきまりにもかかわらず、自分の考えが正しいと主張したり、学級や学校のきまりがおかしいと反論したりし、自己を正当化する児童がいるのも事実である。よって、誰かに言われてではなく、きまりを守ることそのものに道徳的価値があることに気付かせ、時や場所、立場で考えて行動する態度を育てることは、大変意義深いと考える。このような指導を積み重ねていく必要性が実態から見える。

このような児童の実態に対して、本校高学年の重点指導項目である[C規則の尊重]において、法やきまりを守ることの大切さを理解し、自他の権利を大切にしようとする道徳的態度を育て、自己の生き方についての考えを深めさせていきたいと考えている。

## (3) 教材について

本教材は、身近な学校生活を題材としており、児童に自分自身のこととして考えさせることができる。健一たちの学校には、自分たちで決めた校庭遊びのきまりがあるにもかかわらず、鉄男と明の自分勝手な考えによって、きまりは守られていなかった。発端は、ゲーム販売日に、明が高学年の時間を守らなかったことであった。そして、とうとう鉄男の蹴ったボールが一年生にあたり、校庭遊びは休止になってしまう。だが、社会科見学で国会議事堂の見学を通じて、国の法律を決める国会の仕組みや国会議員たちの姿勢を知り、改めてきまりについて考えてみようとする。国会見学を通して、鉄男と明たちが気付いたことや改めてきまりについて考えてみようとした思いを想像することによって、ねらいに迫ることができる教材である。

## 5.指導について

高学年の児童は、一般的な社会のきまりに従って生活できており、学校のきまりも守って生活できている場面が多い。しかし、特に深くきまりについて考えている児童は少ないと感じている。社会のきまりだから、学校のきまりだからという気持ちで、割り切って守っている児童が多くいる。児童はこれまでに、「いらなくなったきまり」の教材を通して、きまりはみんなの生活を豊かにし、学校生活を楽しく過ごすために必要であることを学んできている。権利とは、ある物事を、自分の意思によって自由に行ったり、他人に要求したりすることのできる資格や能力のことである。義務とは、人がそれぞれの立場に応じてしなければならないことである。「権利と義務」という観点から自他の行動などについて考えを深めたり、それらを尊重する生き方について自己の生き方と重ねながら考えを深めたりすることが必要と感じている。そこから、一人一人が権利をもち、義務を果たしながら社会の中で共に生活していることが少しずつ意識できるようになってきた。指導に当たっては、国会が定めるきまりである法や、社会生活を送る上で必要であるきまりなどを進んで守り従うという遵法の精神をもつところまで高めさせたい。また、人と人が仲間をつくり、よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、自分に何ができるのか、自他の権利を十分に尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで法やきまりを守って行動する態度が大切であることを、授業を通して深めさせていきたい。

導入では、きまりを守ることが大切な場面をイメージさせ、話し合いに生かすようにする。「きまりを守らないといけないと思っていても、なかなか守れないと感じるのはどんなときですか。」と問い、道徳的価値に関わる発問で問題意識を高めさせるようにしたい。

展開では、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるために、教材の内容について話し合う必要がある。そのため、一つ目の発問では、「校庭遊びのきまりを破ったのは、どうしてなのか。」と問い、自分たちの権利を主張し、きまりを破る気持ちに目を向けさせるようにする。次に、二つ目の発問では、法やきまりを守ることの大切さを理解し、一人一人が権利をもち、義務を果たしながら社会の中で共に生活していることについて考えさせるために、「鉄男と明がしきりに反省しているのは、どんなことに気付いたからか。」という状況について中心に考え、何が問題なのかを多面的・多角的な思考を促しながら道徳的価値の理解を深めさせたい。その際、一人一人の思考を可視化させるために、多面的・多角的な視点を板書に位置付けていくようにする。さらに、「みんななら、学級の話し合いでどんな考えを提案しますか。」と問い、自分ならどんな意見を主張するのかじっくり考えさせていく。

終末では、「きまりは何のためにあるのでしょうか。授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましよう。」と問い、場面・対象を広げながら、ワークシートに自己の生き方についての考えを深めたか、または、これから深められていけそうかを書かせていく。権利や義務は、自分自身やみんなのことを守るためにあることに気付かせ、法やきまりを守ることの大切さを理解し、自他の権利を大切にしたり、進んで義務を果たしたりしていこうとする道徳的態度を育てていきたい。

## 6.研究とのつながり

### (1) 道徳的価値について多面的・多角的な思考を促す発問

法やきまりを守ることの大切さを理解し、一人一人が権利をもち、義務を果たしながら社会の中で共に生活していることについて考えを深められるようにするために、「鉄男と明がしきりに反省しているのは、どんなことに気付いたからか。」「みんななら、学級の話し合いでどんな考えを提案しますか。」とした。【自分の思い】【相手への思い】【道徳的価値の意味】の側面から[C 規則の尊重]の道徳的価値について深めさせることで、法やきまりを守ることの大切さが話し合いの中で児童の発言から出てくると考える。よって、物事を一面から捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、自分との関わりで捉えていくことができると考える。

### (2) 自己の生き方についての考えを深める

「きまりは何のためにあるのでしょうか。授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」とした。授業を通して権利や義務とはどんなことなのか、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させ、全体で考えを共有していくようにする。

## 7.本時における評価につながる見取り

検証児を C1, C2, C3 とし、道徳的価値について多面的・多角的な思考が促されていくことで、自己の生き方についての考えを深めることができているかを見取っていく。そこで研究を進めるに当たって、「自己の生き方についての考えを深め、これからの生き方につなげていこうとしているか。」という観点で見取りを進める。事後アンケートについては、三つの質問項目を、◎よくできた○できた△もう少しの三件法で自己評価をする。全四回の事後アンケートを数値化することで、検証授業の成果と課題に生かしていきたい。具体的には、クラス全体の児童を対象として実施する。①は、道徳的価値の理解を深めることができたかを見取る。②は、多面的・多角的な思考が促されていたかを見取る。③は、自己の生き方についての考えを深めることができたかを見取る。三点の質問項目を横棒グラフで示し、全四回で変容が見られたか数値化することで、研究の内容を検証する。ただし、数値による道徳性の評価を行うことではない。授業後の聞き取りインタビューでは、検証児に対してのみ行う。書くことが苦手な児童もいるため、「今日の授業で何を学びましたか。」「ワークシートに、～と書いていたけれど詳しく教えて。」と質問すれば、授業では見取れなかった考えを引き出せるのではないかと考えた。

視点	質問項目	対象	方法
児童は、道徳的価値の理解を深めることができたか。	①「道徳的価値の言葉」について自分の考えをもった。	全員	事後アンケート
児童は、多面的・多角的な思考が促されていたか。	②自分とは違う友達の考えのよさを見付けた。	全員	事後アンケート
児童は、自己の生き方についての考えを深めることができたか。	③これからの生活に(続けて)生かしてみようと思った。	全員	事後アンケート



8.本時案

時間	学習活動	主な発問 予想される児童の反応や心の動き	○指導上の留意点 ☆評価につながる見取り
導入 5分	1 きまりについての考えを出し合う。	「きまりを守らないといけないと思っ ていても、なかなか守れないと感じ るのはどんなときですか。」 ・時間に遅れて、つい廊下を走ってし まうとき。	○道徳的価値に関わる発 問で、問題意識を高め させる。
めあて きまりとは、何のためにあるのか考えよう。			
展開 30分	2 教材文を読み、教材の内 容について話し合う。	「校庭遊びのきまりを破ったのは、ど うしてなのか。」 ・自分の遊ぶ権利を主張したから。 ・勝手な理由をつけたから。 ・勝手な行動をしたから。 結果として、一年生にボールが当た ってしまった。	○自分たちの権利を主張 し、きまりを破る気持 ちに目を向けさせるよ うにする。
		鉄男と明がしきりに反省しているのは、どんなことに気付 いたからか。	
		<p>【自分の思い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分勝手な考えだったこと。</li> <li>・得した気分だったけど、今は後悔し ていること。</li> </ul> <p>【相手への思い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生が安全に遊ぶ権利を奪ってし まったこと。</li> </ul> <p>【きまりの意義】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけはいいかなど、きまりを軽 く考えていたこと。</li> </ul> <p>【義務を果たす】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守るという義務を果たさなか ったこと。</li> </ul> <p>【社会の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分さえよければいいと思っていた こと。</li> </ul>	<p>☆ワークシート (自分の考え)</p> <p>○出された考えを整理、 分類して板書し多面 的・多角的な思考が促 されるようにする。</p>
あなたなら、学級の話し合いでどんな考えを提案しますか。			
道徳的価値について多面的・多角的に思考する		自己の生き方についての考えを深める	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが安全で楽しく過ごせるよ うに、学校全体のことを考える。</li> <li>・自分の権利だけでなく、みんなの権 利も大切にしないといけない。</li> <li>・きまりを守ることは、自分の義務を 果たすことになる。</li> <li>・きまりを守ることが、みんなが楽し く遊ぶ権利を守ることになる。</li> </ul>	○自分との関わりで考え させる。

第1発問

第2発問

<p>終末 10分</p>	<p>3めあてについて、自分の考えを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自己の生き方についての考えを深める</p> </div>	<p>「きまりは何のためにあるのでしょうか。授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりは、みんなが安全に過ごすためにある。</li> <li>・自分の権利だけでなく、他の人の権利も大切にするためにある。</li> <li>・権利や義務は、自分自身やみんなのを守るためにある。</li> </ul> </div> <p>説話</p> <p>集団や社会は、様々な立場のいろいろな考え方をもちた一人一人が集まってできています。だからこそ、守っていかないといけないことがありますね。</p>	<p>☆ワークシート (自分の感じたことや考えたこと)</p> <p>○自己の生き方についての考えが深められるようにするため、これまでの生活を振り返って考えさせる。</p>
-------------------	--	--	--

私たちは、一人一人が権利をもち、義務を果たしながら社会の中で共に生活しています。

日本国憲法では、人が人として当然もっている権利で、生まれてから死ぬまで、全ての国民に保障されている権利を「基本的人権」として尊重することを定めています。また、同時に、国民が果たさなければならない義務についても定めています。

権利とは、ある物事を、自分の意思によって自由に行ったり、他人に要求したりすることのできる資格や能力のこと。自分

- 教育を受ける権利
  - 健康で文化的な生活を営む権利（生存権）
  - 政治に参加する権利（参政権）
  - 思想や学問の自由
  - 環境権
  - 知る権利
  - プライバシーの権利
  - 等

義務とは、人がそれぞれの立場に応じてしなければならないことや、してはならないこと。相手

- 子供に教育を受けさせる義務
  - 仕事に就いて働く義務
  - 税金を納める義務

## 第6学年 道徳科学習指導案

### 【研究主題・副題】

自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想  
～多面的・多角的な思考を促す発問を通して～

### 【研究仮説】

道徳科において、多面的・多角的な思考を促す発問を取り入れた授業展開を行えば、様々な感じ方や考え方に触れ、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。



### 【授業仮説】

多面的・多角的な思考を促す発問にかかる学習過程において、登場人物がどんな思いで最後のひと葉を描くことができたのかを考えたり、一人一人が考える思いやりとはどんなことなのか自分の生き方を振り返ったりしながら深く考えることにより、親切な行為は、人のことを自分のことのように大切に思う心から生まれ、自分にできる精一杯のことをしようとする道徳的実践意欲を育てることができよう。

1.主題名 相手を思う、とうとい心 [B親切, 思いやり]

2.教材名 「最後のひと葉」(小学道徳 ゆたかな心 出典:光文書院)

3.主題のねらい 親切な行為は、人のことを自分のことのように大切に思う心から生まれることが分かり、自分にできる精一杯のことをしようとする道徳的実践意欲を育てる。

#### 4.主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」をねらいとしている。これは、中学年「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」を受け、中学校「思いやり、感謝」で「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」につながっていく。人間にとって、相手の立場に立って考えたり、相手の困難を想像し、共感したりすることは、親切心や、思いやりの心を形成する基盤となるものである。思いやりとは、相手の気持ちや立場を考え、相手を受け入れたり、相手に共感したりすることである。そして、思いやりをもって相手が必

要としていることを実際に行う行為が親切である。人の思いは、目には見えない。しかし、誰に対しても自分の思いを言葉にして表したり、行動に現したりして表現すると相手に伝わることもある。その思いを受けて、相手がどんな状況なのかを感じたり、考えたりすることを通して、どのようにすれば相手のためになる行動ができるか、相手のためになる対処ができるのか、よく考えることが必要になってくる。その相手が自分にとって苦手な人だとしても、同じ人間として助け合うことは当然だと考える。人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれに伴った親切の行為を、損得勘定なく児童が接する全ての人に広げていくことが大切である。そのような思いが生み出した行為は、人の心を動かしたり、前向きに生きようとする原動力になったりすることもある。高学年の児童には、親切な行為は、人のことを心配し、自分のことのように大切に思う心から生まれることや、人を思う心が自分にもあることを自覚し、人に対して自分にできる精一杯のことをしようとする道徳的実践意欲を育てていくことが必要である。

## (2) ねらいからみた児童について

本学年部の多くの児童は、低学年や高齢者、友達に対して進んで親切にしようとしている。しかし、相手の気持ちや状況を考えて上での行為ではなく、自分の価値判断で助けたり声をかけたりし、相手にとっては親切になっていない場合もある。高学年になると、相手の立場に立って物事を見ることができるようになり、相手の気持ちを察することができるようになる。また、どのような行動が思いやりになるか考え、ときにはそっとしておいたり、逆に厳しい言葉をかけたりすることも相手のことを心から思うことにつながることも理解できるようになる。これは、相手の喜びを自分の喜びとして受け止める心が育ってきているからである。このような実態から、相手を心から思う思いやりについて、自分もそのような心をもっていることについて考えさせるよい時期である。

このような児童の実態に対して、本校高学年の重点指導項目である [B 親切, 思いやり] において、親切な行為は、人のことを自分のことのように大切に思う心から生まれることが分かり、自分にできる精一杯のことをしようとする道徳的実践意欲を育て、自己の生き方についての考えを深めさせていきたいと考えている。

## (3) 教材について

本教材は、相手を思う尊い心や、生命の尊さとそのつながりについて考えるきっかけをつくることができる。ベアマンは、病気で生きる気力を無くしているジョンジーのために、嵐の中でつたの葉の絵を描き、翌日そのつたの葉を見たジョンジーは徐々に生きる希望を取り戻していく。ベアマンは、結果的に肺炎を患って亡くなるが、嵐の中で絵を描くという行為に駆り立てたのは、生きる気力を失ったジョンジーを心から心配し、大切に思う心である。スウの行為からも同じ心があることが分かる。二人のジョンジーに対する行為や、生きる希望を徐々に取り戻したジョンジーの姿から、相手のことを思う心から行為が生まれていることに気付くことができる教材である。

## 5.指導について

親切と思いやりの関係は、行為と心として表すことができる。親切な行為は、相手のことを自分のことのように大切に思う、思いやりの心から生まれる。ベアマンとスウの行為は異なるが、思いやりという共通の心から生まれた行為だったからこそ、ジョンジーを勇気づけ、支えとなり、風前の灯だった命を救うことができたと考えられる。本時では、二人の行為の意味を問うことで、その行為を支えた思いやりの心に目を向け、行為と心の関係が大切であることを、授業を通して深めさせていきたい。

導入では、自分たちがもっている思いやりの心についての考えを出させ、話し合いに生ずようにする。「思いやりの心とは、どういう心のことだと思いますか。」と問い、道徳的価値に関わる発問で問題意識を高めさせるようにしたい。

展開では、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるために、教材の内容について話し合う必要がある。そのため、一つ目の発問では、「ベアマンは、最後のひと葉をかこうとしたとき、どんな思いをもっていたと思いますか。」と問い、ベアマンの心情や考えを明らかにしていく。次に、二つ目の発問では、親切な行為は、人のことを自分のことのように大切に思う心から生まれることが分かり、自分にできる精一杯のことをしようとするということについて考えさせるために、「ベアマンは、どうして傑作をかくことができたのか。」という状況について中心に考え、より一層多面的・多角的な思考を促しながら価値理解を深めさせたい。その際、思いやりの心の意味をどう捉えているのか考えさせていく。

終末では、「あなたが考える思いやりの心とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましよう。」と投げかけ、場面・対象を広げながら、ワークシートに自分の考えを深めたか、または、これから深められていけそうかを書かせていく。誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることを理解させていきたい。

## 6.研究とのつながり

### (1) 道徳的価値について多面的・多角的な思考を促す発問

親切な行為は、人のことを自分のことのように大切に思う心から生まれることを理解させるために、「ベアマンは、最後のひと葉をかこうとしたとき、どんな思いをもっていたと思いますか。」「ベアマンは、どうして傑作をかくことができたのか。」とした。【自分の思い】【ジョンジーへの思い】【思いやりの心】の側面から道徳的価値について深めさせ、親切な行為を支える価値が話し合いの中で児童の発言から出てくると考えた。よって、物事を一面から捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、自分との関わりで考えていくことができる。

## (2) 自己の生き方についての考えを深める

「あなたが考える思いやりの心とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」とした。授業を通して思いやりの心とはどういう心のことなのか、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させ、全体で考えを共有していくようにする。

## 7.本時における評価につながる見取り

検証児を C1, C2, C3 とし、道徳的価値について多面的・多角的な思考が促されていくことで、自己の生き方についての考えを深めることができているかを見取っていく。そこで研究を進めるに当たって、「自己の生き方についての考えを深め、これからの生き方につなげていこうとしているか。」という観点で見取りを進める。事後アンケートについては、三つの質問項目を、◎よくできた○できた△もう少しの三件法で自己評価をする。全四回の事後アンケートを数値化することで、検証授業の成果と課題に生かしていきたい。具体的には、クラス全体の児童を対象として実施する。①は、道徳的価値の理解を深めることができたかを見取る。②は、多面的・多角的な思考が促されていたかを見取る。③は、自己の生き方についての考えを深めることができたかを見取る。三点の質問項目を横棒グラフで示し、全四回で変容が見られたか数値化することで、研究の内容を検証する。ただし、数値による道徳性の評価を行うことではない。授業後の聞き取りインタビューでは、検証児に対してのみ行う。書くことが苦手な児童もいるため、「今日の授業で何を学びましたか。」「ワークシートに、～と書いていたけれど詳しく教えて。」と質問すれば、授業では見取れなかった考えを引き出せるのではないかと考えた。

視点	質問項目	対象	方法
児童は、道徳的価値の理解を深めることができたか。	①「道徳的価値の言葉」について自分の考えをもった。	全員	事後アンケート
児童は、多面的・多角的な思考が促されていたか。	②自分とは違う友達の考えのよさを見付けた。	全員	事後アンケート
児童は、自己の生き方についての考えを深めることができたか。	③これからの生活に（続けて）生かしてみようと思った。	全員	事後アンケート

8.本時案

時間	学習活動	主な発問 予想される児童の反応や心の動き	○指導上の留意点 ☆評価につながる見取り
導入 5分	1 思いやりの心についての考えを出し合う。	「思いやりの心とは、どういう心のことだと思いますか。」 ・人に優しくする心のこと。 ・困っている人を助ける心のこと。 ・何かしてあげようと思う心のこと。	○道徳的価値に関わる発問で、問題意識を高めさせる。
めあて 思いやりの心とは、どういう心のことか考えよう。			
展開 30分	2 教材文を読み、教材の内容について話し合う。	「スウは、どんな思いでジョンジーを看病していたのでしょうか。」 ・早く元気になってほしい。 ・できることをしてあげよう。 ・何をしてあげたらいいの。 ・心配で心配でたまらない。	○ワークシート (自分の考え) ○出された考えを整理、分類して板書し多面的・多角的な思考が促されるようにする。
		<b>第1発問</b>	
		ベアマンは、最後のひと葉をかこうとしたとき、どんな思いをもっていたと思いますか。	
道徳的価値について多面的・多角的に思考する	自己の生き方についての考えを深める	【自分の思い】 ・わしも傑作をかきたい。みんなでここを出ていこうという思い。 ・わしの絵で元気にしたい。 【ジョンジーへの思い】 ・かわいそうな娘だ。 ・善良な人間が寝ている所ではない。 ・ジョンジーを大切に思っている。 ・命を大切にしてほしいという思い。 【思いやりの心】 ・ジョンジーを大切に思っている。 ・いてもたってもいられなくなった。 ・自分のできることをしたい。それが、ジョンジーのためになる。 ・自分にできることを、一生懸命にしよう。	<b>第2発問</b>
		ベアマンは、どうして傑作をかくことができたのか。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョンジーへの思いやりが入っているから。</li> <li>・自分のことを忘れるぐらい、ジョンジーを助けたかったから。</li> <li>・自分の力を出し切ったから。</li> <li>・人のために絵をかきたいと思ったから、結果として傑作になった。</li> </ul>	○意図的な話し合いの場面を設定し、全体で考えを共有する。(ペアやグループ)

<p>終末 10分</p>	<p>3めあてについて、自分の考えを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自己の生き方についての考えを深める</p> </div>	<p>「あなたが考える思いやりの心とは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを心配して、行動にうつす人のこと。</li> <li>・相手のことを大切に思っていること。</li> <li>・相手のことを自分のことのように思っていること。</li> <li>・相手の幸せを思って行動すること。</li> <li>・これからは、思いやりの心で人と接していきたい。</li> <li>・思いやりの心の意味が分かったので、私もできることをしたい。</li> </ul> </div> <p>説話</p> <p>思いやりの心はみんなにあります。どうすればあの人のためになるのかと考える。</p> <p>それが、あなたの思いやりです。あなたらしい思いやりの心を育てよう。</p> <p style="text-align: center;">「行為の意味」 宮澤 章二</p> <p>あなたのところはどんな形ですか と 人に聞かれても答えようがない 自分にも他人にもころは見えない けれど ほんとうに見えないのであ ろうか</p> <p>確かにころはだれにも見えない けれどころづかいは見えるのだ それは 人に対する積極的な行為だ から</p> <p>同じように胸の中の思いは見えない けれど思いやりはだれにでも見える それも人に対する積極的な行為なの だから</p> <p>※「行為の意味 青春前期のきみたちに」 出典：ごま書房新社</p>	<p>☆ワークシート (自分の感じたことや考えたこと)</p> <p>○自己の生き方についての考えが深められるようにするため、これまでの生活を振り返って考えさせる。</p>
-------------------	---	--	--



## 第6学年 道徳科学習指導案

### 【研究主題・副題】

自己の生き方についての考えを深める道徳科授業の構想  
～多面的・多角的な思考を促す発問を通して～

### 【研究仮説】

道徳科において、多面的・多角的な思考を促す発問を取り入れた授業展開を行えば、様々な感じ方や考え方に触れ、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

1.主題名 お互いを思いやる心 [B親切, 思いやり]

2.教材名 「最後のおくり物」(私たちの道徳 小学校5・6年 出典:文部科学省)

3.主題のねらい 誰に対しても思いやりをもち、相手の立場に立って行動しようとする道徳的実践意欲を育てる。

### 4.主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。」をねらいとしている。これは、中学年「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」を受け、中学校[思いやり, 感謝]で「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」につながっていく。人間は、他の人との交流を深め、人間愛の精神に支えられることによって、力強く生きることができる。本内容項目では、人と豊かに関わり合いながら生きていくこと、特に相手の立場に立って考えること、相手への思いやりをもつこと、その思いやりを形として行動に表せるようになることなどについて考えることが重要である。高学年の児童には、どのように相手と接し、対処していくことが相手のためになるのかをよく考え、相手の立場に立って親切にすることの大切さに気付かせていく必要がある。誰に対しても思いやりをもって接するためには、その立場や状況によって望んでいる対応が異なることにも気付かせていきたい。

#### (2) ねらいからみた児童について

本学年部の多くの児童は、低学年や高齢者、友達に対して進んで親切にしようとしている。しかし、相手の気持ちや状況を考えた上での行為ではなく、自分の価値判断で助けたり声をかけたりし、相手に

とっては親切になっていない場合もある。高学年になると、相手の立場に立って物事を見ることができるようになり、相手の気持ちを察することができるようになる。また、どのような行動が思いやりになるか考え、ときにはそっとしておいたり、逆に厳しい言葉をかけたりすることも相手のことを心から思うことにつながることも理解できるようになる。これは、相手の喜びを自分の喜びとして受け止める心が育ってきているからである。このような実態から、相手を心から思う思いやりについて、自分もそのような心をもっていることについて考えさせるよい時期である。

このような児童の実態に対して、本校高学年の重点指導項目である [B 親切, 思いやり] において、誰に対しても思いやりをもち、相手の立場に立って行動しようとする道徳的実践意欲を育て、自己の生き方についての考えを深めさせていきたいと考えている。

### (3) 教材について

本教材は、俳優への夢をもちながらもなかなか実現できずにいる青年ロベータに対する、老守衛ジョルジュの思いやりのある行為を中心として構成したものである。ジョルジュの思いやりは、ロベータに対する経済的な援助だけでなく、相手に対する暖かな心遣いとしても表現されている。ジョルジュは、自分の名前を明かすことなく資金援助をしていたが、体をこわしロベータの家の前で倒れてしまう。その時、初めて自分を支えてくれていた人がジョルジュであることに気付いたロベータは、「自分が息子である。」と言い、ジョルジュの最後を看取る。ジョルジュからの最後の手紙を読み、これからの自分の生き方を見据え、何かを決意していく話である。ロベータは、自分を支えてくれるジョルジュの思いやりに時に甘え、自己本位な考えに陥る人間的な弱さも併せもっている。二人がお互いを思いやる心情や行動から、思いやりとは何かを深く考えさせられる教材である。

## 5. 指導について

相手の身になって考え、誰に対しても温かく接することは、よりよい人間関係や思いやりに満ちた集団を築く上で大切である。真の信頼関係の基盤は、相手の立場に立てる、相手の身になって考えられるという思いやりである。本時では、二人の行為の意味を問うことで、その行為を支えた思いやりに目を向け、行為と心との関係が大切であることを、授業を通して深めさせていきたい。

導入では、自分たちがもっている思いやりについての考えを出し合わせる。今回は、前回の授業で学んだことを生かすために、「思いやりが大切と感じるのはどんなときですか。」と問い、道徳的価値に関わる発問で、問題意識を高めさせるようにしたい。

展開では、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるために、教材の内容について話し合う必要がある。そのため、第 1 発問では、『「ぼくが付きそいます。息子なんです。」ときっぱり言ったロベータは、どんな思いをもっていたと思いますか。』と問い、ロベータの心情や考えを明らかにしていく。次に、第 2 発問では、「ロベータは、どうして最後の手紙を読んだとき、涙が出たのか。」と問い、自分の考えや生き方を明らかにしていく。

終末では、「みんなが考える思いやりとは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の

感じたことや考えたことを書きましょう。」と問い、ワークシートに自分の考えを深めたか、または、これから深められていけそうかを書かせていく。

## 6.研究とのつながり

### (1) 道徳的価値について多面的・多角的な思考を促す発問

お互いを思いやる心情や行動から、思いやりとはどういうことなのか理解を深めるために、『「ぼくが付きそいます。息子なんです。」ときっぱり言ったロベータは、どんな思いをもっていたと思いますか。』

「ロベータは、どうして最後の手紙を読んだとき、涙が出たのか。」とした。【ジョルジュじいさんへの思い】【反省や後悔】【思いやり】の側面から、道徳的価値が話し合いを通して児童の発言から出てくると考えた。よって、物事を一面から捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、自分との関わりで考えていくことができる。

### (2) 自己の生き方についての考えを深める

「みんなが考える思いやりとは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」とした。授業を通して思いやりとはどういうことなのか、今までの生活を振り返ったり、これからの生き方を考えたりするために、ワークシートに自分の考えを整理させ、全体で考えを共有していくようにする。

## 7.本時における評価につながる見取り

ワークシートと、事後アンケート、逐語記録によって全体を見取るようにする。ワークシートでは、第1発問の後に書く時間を設定し、多面的・多角的な思考が促されているのを見取るようにする。また、終末において、自分の感じたことや考えたことを書く時間を設定し、自己の生き方についての考えを深めているのを見取るようにする。事後アンケートでは、三つの質問項目を子どもが自己評価する。逐語記録では、発問によって子どもの思考にどのような変容が見られたか、本時における発問は有効であったかの検証とする。

8.本時案

時間	学習活動	主な発問 予想される児童の反応や心の動き	○指導上の留意点 ☆評価につながる見取り	
導入 5分	1 思いやりについての考えを出し合う。	「思いやりが大切と感じるのはどんなときですか。」 ・人が困っているとき。 ・相手のことを考えているとき。 ・相手のために何かをしてあげるとき。	○道徳的価値に関わる発問で、問題意識を高めさせる。	
展開 30分	2 教材文を読み、教材の内容について話し合う。	めあて 思いやりとは、どういうことなのか考えよう。		
			「ロベータは、どんな思いで思わず唇をかんだのでしょうか。」 ・先生や仲間から次第に認められるようになったのに。 ・このままおくり物が届かなかつたらどうしよう。お金がない。	第1発問
			「ぼくが付きそいます。息子なんです。」ときっぱり言ったロベータは、どんな思いをもっていたと思いますか。	
道徳的価値について多面的・多角的に思考する		【ジョルジュじいさんへの思い】 ・今までのおくり物は、ジョルジュじいさんからだったんだ。 ・ジョルジュじいさんのために、看病をしたい。恩返しをしたい。 【反省や後悔】 ・自分勝手に、本当におろかだった。 ・どんなに苦しんでいたかも知らなかった。許してください。 ・お金が届かないとき、送ってくれた人をうらんだ自分がはずかしい。 【思いやり】 ・ジョルジュじいさんからの思いやりが伝わった。 ・見ず知らずの僕のことを大切に思ってくれていたんだ。 ・仕事よりも、付きそいをしたい。 ・ジョルジュじいさんに支えられていたことに気付いた。	☆ワークシート (自分の考え) ○出された考えを整理、分類して板書し多面的・多角的な思考が促されるようにする。	
		「ロベータは、どうして最後の手紙を読んだとき、涙が出たのか。」	第2発問	
自己の生き方についての考えを深める		・お金だけでなく、思いやりや優しさが大切なことに気付いたから。 ・相手の立場に立って考えることが大切なことに気付いたから。 ・相手を心配して、何か行動する大切さに気付いたから。	○意図的な話し合いの場面を設定し、全体で考えを共有する。(ペアやグループ)	

<p>終末 10分</p>	<p>3めあてについて、自分の考えを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自己の生き方についての考えを深める</p> </div>	<p>「みんなが考える思いやりとは、どんなことでしょうか。今日の授業を振り返り、自分の感じたことや考えたことを書きましょう。」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを心配して、行動にうつすこと。</li> <li>・相手のことを大切に思っていること。</li> <li>・相手のことを自分のことのように思っていること。</li> <li>・相手の幸せを思って行動すること。</li> <li>・これからは、思いやりをもって人と接していきたい。</li> <li>・思いやりの意味が分かったので、私もできることをしたい。</li> </ul> </div> <p>説話</p> <p>思いやりは、みんなにあります。どうすればあの人のためになるのかと考える。それが、あなたの思いやりです。あなたらしい思いやりの心を育てよう。</p>	<p>☆ワークシート (自分の感じたことや考えたこと)</p> <p>○自己の生き方についての考えが深められるようにするため、これまでの生活を振り返って考えさせる。</p>
-------------------	--	---	--